



Newsletter

No. 57

2014年5月10日

発行 レイバーネット日本

〒173-0036 東京都板橋区向原 2-22-17-108

http://www.labornetjp.org

labor-staff@labornetjp.org

電話 03-3530-8588 FAX 03-3530-8578

ガマンも限界!

「非正規差別・残業代ゼロ・生涯ハケン」に反撃を

連合は、4月26日に代々木公園でメーデー（4万人）を開催したが、安倍首相を来賓として招待した。労働規制緩和・雇用破壊政策の頭目になぜ呼ばれるのか。一般組合員から批判の声が上がった。安倍首相が発言をはじめると、「残業代ゼロ絶対反対」のコールが湧き起こった。また、全国ユニオンは「安倍首相～！ 過労死促進の残業代ゼロ法案と 生涯ハケンで低賃金の派遣法改悪をやめろ！」という5メートルの横断幕を掲げた。あちこちから「ヤジ」が飛び、アベノミクス成功を自画自賛する安倍首相は、冷や水を浴びせかけられた。ヤジの様子はレイバーネットTV取材班が撮影し、その日のうちにYouTubeにアップした。マスコミではこの事実は、ほとんど報道されなかったため、レイバーネットの役割は大きかった。

5月1日には、全労連の代々木メーデー（2万7千人）、全労協の日比谷メーデー（7千人）がそれぞれ開かれ、「安倍雇用破壊反対」の氣勢を上げた。参加者は雇用問題だけでなく、解釈改憲など戦争できる国に突っ走る安倍政権への危機感にあふれていた。しかし、組合の組織率の低下や高齢化もあり、労働運動のパワー・影響力が減退しているのも事実だった。

そんななか、5月1日に「非正規差別撤廃」を求めて損害賠償訴訟を提起し、ストライキに突入した東京東部労組メトロコマース支部（東京メトロ売店員）のたたかいは異彩を放っていた。この日午後から東京メトロ本社前で開かれた抗議行動には、約280人が参加した。当該の東部労組だけでなく、郵政産業ユニオン、フリーター労組、演劇グループ、一般市民、インターネットメディアなど、これまでにない多様な広がりだった。

集会では、売店員がストライキの思いを語った。「同じ仕事をやっていて、どうしてこんなに差別されなくてはいけないのか！もうガマンの限界だ！」。この言葉は、年収200万円そこそこで、無権利の労働と貧困生活を強いられている2千万



人非正規労働者の叫びを代弁していた。とことん追いつめられている労働者。しかし「非正規差別・残業代ゼロ・生涯ハケン」に反撃する運動の芽はあちこちに生まれている。レイバーネットもその中で、できる限りの役割を果たしていきたい。

(松原明・レイバーネット共同代表)

<レイバーネット活動予定>

●レイバーネットTV

第69号 5月14日(水) 午後8時～9時30分

「PC 遠隔操作事件の真実とは？」

ゲスト=片山祐輔さん(被告)ほか

「ザ争議」DNP ファイン争議・橋場恒幸さん

第70号 5月28日(水) 午後8時～9時30分

「チェルノブイリ汚染地域からフクシマが見えてくる」

ゲスト=白石草さん・野口時子さん

第71号 6月11日(水) 午後8時～9時30分

第72号 6月25日(水) 午後8時～9時30分

*配信場所はバンブースタジオ(竹林閣)

(企画持ち込み歓迎。なお7月はお休み)

●レイバー映画祭2014

ことしもやります、レイバー映画祭。海外の新作・話題作を準備中。7月26日(土)田町交通ビル6Fホールです。

●例会・技術講習会

ウクライナ情勢をめぐっての例会やパソコン・ビデオの基礎講座などもやりたいと思います。

レイバーネット 2014 年総会を開催

「田中正造・石川啄木・幸徳秋水」に触発され

3月8日、東京・スペースたんぽぽで「レイバーネット総会 2014」が開催された。「第一部」では経過報告・会計報告・今後の方針などが提起された。創立以来13年続いた持続的活動は、さまざまな成果を上げており、より一層の広がりをめざしたいとの内容だった。ディスカッションでは、職場に差別・分断が持ち込まれ連帯・団結の基礎がつかない状況、社会全体がブラック化していることなど、厳しい現状の報告が相次いだ。しかし、二部の講談「田中正造伝・石川啄木と幸徳秋水の巻」は、国家の戦争と公害とたたかった田中正造・石川啄木・幸徳秋水の生きざまが伝わり、大いに元気をもらう集いになった。第一部・第二部あわせて約40名が参加。二次会も20名が参加し、講談の感想や運動交流で盛り上がった。



＜レイバーネット 2013 年度会計＞

会計監査 下見徳章

会計年度 2013年1月1日～12月31日

〔基本財政〕

● 2013年度への 繰り越し金	490,243 円
● 収入	
会費	1,247,000 円
郵便振替	3000 円×297 件＝ 891,000 円
	5000 円×56 件＝ 280,000 円
現金	3000 円×12 件＝ 36,000 円
	5000 円×8 件＝ 40,000 円
△ 128000 円 (TV サポーターズクラブ・	
5000 円会員の 2000 円分)	
カンパ	146,000 円
雑入	20,956 円
小計	1,285,956 円

● 支出

ニュースレター印刷費・発送費	293,595 円 (5 回分)
会議交通費	212,790 円
郵便・宅配	20,530 円
封筒印刷	66,794 円
運搬タクシー	14,920 円
会場費	42,000 円
送金手数料	33,750 円
消耗品雑費	10,692 円
謝礼 (講師・依頼原稿など)	20,420 円
JCA-NET サーバー	128,940 円
事務所維持費	240,000 円 (月 2 万円)
国際部活動費 (翻訳)	72,000 円 + 36,000 円
	(前年後期分含む)
技術部ウェブ管理費	72000 円 + 36000 円
	(前年後期分含む)
小計	1,300,431 円

基本財政

△ 14,475 円 (a)

《 レイバー映画祭 2013 》

収入	638,981 円
(参加費・チケット・カンパ・物販含む)	
支出	210,979 円
差引	428,002 円 (b)

《 レイバーフェスタ 2013 》

収入	392,500 円
(参加費・賛同金・チケット)	
支出	354,847 円
差引	37,653 円 (c)

《 川柳班 (原発川柳句集) 》

収入	256,400 円 (基金カンパ)
支出	377,295 円 (印刷費・編集費など)
差引	△ 120,895 円 (順次ホテン中) (d)

《 レイバーネット TV 》

前年度からの繰越金	△ 44,026 円
収入	
TV サポーターズクラブ分	128,000 円
カンパ	165,374 円
事業収入	249,000 円
(あおぞら放送・女子会 TV)	
受賞賞金	100,000 円
バッジ売上	8,300 円
小計	650,674 円
支出	
放送一式 16 回分	
(会場費・出演ギャラ・スタッフ費・運搬費)	
	467,290 円 (平均約 29000 円)
デコ・機材・打合せ・リーフ印刷その他	113,734 円
小計	581,024 円
差引	25,624 円
(a) + (b) + (c) + (d) + (e) =	355,909 円
前年度繰越	490,243 円

★トータル残額 (2013.12.31 現在) 846,152 円

<レイバーネットとの出会い>

長谷川 澄

カナダで福島支援のボランティア

カナダ・モントリオール在住の私とレイバーネットとの出会いは2013年の5月のことです。3月の中旬に、購読している雑誌「世界」の4月号とその頃よくネットで聞いていた「報道するラジオ」の両方で、福島第一の作業員の待遇が賃金も宿舍などの条件も事故当初より悪くなっていることが報じられました。とても黙っていられず、日本政府と東電経営陣に対するアピールを書き、友達に協力してもらって、英語と仏語の訳も作り、北米のネットに出しました。日本でも友達が拡散してくれたのですが、団体を知らないからあまり広がりませんでした。けれど、どこで見つけてくれたのか、5月になって、レイバーネットの松元千枝さんが署名とレイバーネットTVのサイトをメールしてくださいました。

その時、はじめて見たレイバーネットTVが面白くて、面白くて、間もなく過去の分も見られるものは殆ど見て、新しい放送を心待ちにするようになりました。こんなに有益で知りたいことが満載されている番組をタダで見ては申し訳ないと思いましたが、日本に住んでいないから、会員にはなれないのだろうと思って、少額のカンパを2回ほどしたところ、松原明さんからメールをいただき、会員にならないかと誘って頂いたのがほんの2ヶ月ほど前のことです。

会員になって、一番良かったのは日本のあちこちで、それぞれの場所で社会を少しでもまともにしようとして努力している人たちがたくさんいて、若い人も本当にがんばっていることが分かったことです。「世界」は、とても良い雑誌で、今も購読していますが、投稿する人は60歳以上が多く、日本で頑張っているのは年寄りばかりかと思っていました！

私も2011年に、26年間日本語教員として勤めた英語大学を退職したのだから年寄りの部類です。その前6年間は仏語大学で日本語の非常勤講師をし、その前2年は同じ仏語大学の東アジア図書館でパートタイムで働きました。(こう書くと英仏堪能のようですが、とんでもない。両方とも問題だらけです)。ずっと大学にいたから、今でも連絡を取り合う昔の学生もいるし、若い人と話し合うことが大好きです。

退職してからは幾つかのボランティアをしています。

日本に関係のあることでは「絆ジャパン」と「9条の会」の活動がありますが、「9条の会」は今、あまり活動していないので、「絆」について書きます。「絆」は東日本大震災の後で、子どもを日本語・日本文化を学ぶセンターに通わせているモントリオールとその周辺のお母さんたち数名が立ち上げたボランティア・グループです。

この会のモットーは、原発事故後に放射能との共存を余儀なくされている福島その他の地域の人たちの声を聞き、現状を知り、情報を共有して、共に考えることです。会の代表は「子ども達を放射能から守る福島ネットワーク」、その他の日本の様々なグループや「World Network For Saving Children from Radiation」などと連絡を取りながらニュースレターを配信しています。私もレイバーネットMLから得た原発関係の情報は代表に転送しています。受信している人は90人位です。

また今までに3回、大学などを会場にして、カナダの人とも情報を共有するために、講演や英語字幕付きのDVDを見て話し合う会もしました。他に日本人や日本に興味のある人が集まる「祭り」などのイベントにはブースを借りて、原発事故関係の展示をし、本の販売、支援者の手作り品の販売などして、収益は子どもの保養、疎開を支援するグループなどに送っています。

とにかく、真の復興への道が見えてくるまで、事故を風化させず、ここで出来る支援を続けていきたいと考えているグループで、私も支援者の一人として、イベントなどの手伝いをしています。

(写真左手前が筆者)



2014.04.

● 2014年度運営委員 (順不同)

伊藤彰信 (顧問・全港湾)
河添誠 (共同代表・首都圏青年ユニオン青年非正規労働センター事務局長)
安田幸弘 (共同代表・技術部)
尾澤邦子 (共同代表・ノレの会)
松原明 (共同代表・ビデオプレス)
土屋トカチ (事務局長・映像グループ「ローポジション」)
佐々木有美 (事務局次長・ビデオプレス)
武田敦 (事務局次長・首都圏青年ユニオン)
松元千枝 (事務局次長・ジャーナリスト)
下見徳章 (会計監査・郵政労働者ユニオン)
高幣真公 (国際部・日中労働情報フォーラム)
杜海樹 (ライター)
安齋徹雄 (出版ネット)
岩川保久 (翻訳家)

なすび (山谷労働者福祉会館)
新田進 (小川町シネクラブ)
東海林智 (ジャーナリスト)
木下昌明 (映画批評)
八幡純一 (国労)
安並克磨 (音楽家ユニオン)
森広泰平 (アジア記者クラブ)
須田光照 (東京東部労組)
ジョニーH (音楽班)
笠原真弓 (川柳班)
杭迫隆太
*乱鬼龍 (川柳班)
*堀切さとみ (映像制作者)
*西中誠一郎 (ジャーナリスト)
小山帥人 (大阪)
木村ジョウ (関西報道部)
*新規

新入会員紹介

●講談で「民衆の歴史」伝えたい 甲斐織淳

パン! アマチュア講談師を自称する甲斐織淳(かいおりじゅん)です。

パン! 「足尾鉍毒事件と田中正造」をテーマに、連続の講談の台本を書き、語っております。「歴史は姿かたちを変えながらも繰り返す、だから歴史を学ぶ意味がある」(ソクラテスの言葉?)。

パン! 負けてはいられません。福島原発事件と足尾鉍毒事件には、あまりにも共通性が多いのは驚くばかりです。

「正造の講談説法の巻」「天皇直訴事件・上・中・下」「石川啄木と幸徳秋水の巻」と台本を書きながら語っております。

パン! そして今とりかかろうとしているのは、故郷谷中村を追われていった人々がたどった道、「鉍毒に追われて」というテーマです。北海道サロマベツ移民、正造さんが「政府の奸策」と呼んだ、謀略と罠。「権力者とその手先は、いつの時代も被害者を分断し対立を作り出して行きます。被害者を孤立させようと必死です」。たまには日本人を、そうですね、宇井純さんが言いそうな言葉ですね。その巧妙さ、残忍非道さ。

放射能に故郷を奪われ、放射能に追われている福島の人々の姿は、百年前の谷中村に原型が現れています。その中で、人々がどう闘い、どう生き抜いていったのか? そこから今何を汲み取れるのか? 百年前と現代を考えているうちに、百年後の人々は今日の私たちをどう評価するだろうか? という事を、ふと考えます。

百年後があった場合の話ですが。

●文学・文化戦線のたたかい 牧子嘉丸

レイバーネットの掌編小説「牧子嘉丸のショート・ワールド」を書いている牧子です。このたび7月発行の『労働者文学』に私の評論「文学は現実をどうえがいたか」が掲載されます。平和と民主主義を脅かす極反動政権に抗する文学・文化戦線の闘いとしてかきました。ぜひお読みください。入手方法は「労働者文学」で検索してみてください。どうぞよろしく。

●映画『60万回のトライ』をプロデュース 永田浩三



1954年大阪生まれ。東京・練馬区の大学で、ドキュメンタリー番組の制作やジャーナリズムを、学生とともに学ぶ毎日です。先日、レイバーネットTVで、NHKの靱井勝人新会長の発言について話す機会をいただきました。5年前までNHKにいました。世の中がこれほど怒っているのに、そこで働くひとたちが声をあげない。これはおか

しい。市民とともに立ち上がってほしいと思います。3月から、わたしが共同プロデュースした映画『60万回のトライ』が劇場公開。たくさんの方が足を運んでくださっています。ありがたいことです。この夏には、第五福竜丸シリーズで知られる画家ベン・シャーンを追ったルポルタージュが大月書店から出ます。よろしくお祈りします。

●「地域医療・ケア」に取り組む 小幡詩子

私は「地域医療・ケア」の一環として、千葉で「猫の手会」を開いています。病院中心の上からの医療ではなく、地元民が主役の、下からの地産地消型ケアです。スーパードクターもゴッドハンドもなく、あるのは頼りないけれど差し伸べ合う猫の手の数々? 高齢の元開業医が、閉院後の診療室を地域に開放し、元看護士や患者、地域住民(独居老人、引き籠りの若者やその家族)が混然一体となって健康相談や話し合い、野菜作りなどしています。

現場が今抱えている問題は、若者(特に女性)に増加傾向のBPD(境界性人格障害)関連です。限りある紙面上、詳述できませんが「母親だけの責任」でも「遺伝」でもなく、同調圧力社会でぶつかり体験回避の良い子(未熟な自我)に発症しやすい、社会病理だと推察されます。安倍政権肝心の教育再生を通じて国家に都合がいい人材育成は、一大BPD予備軍も生み出すのではないのでしょうか。

●載りにくいテーマを追いたい 林美子

「朝日新聞」で4月から雇用・労働担当の編集委員をしている林美子と申します。所属は特別報道部です。2001年から2003年まで記者として労働問題を取材し、2006年末から2008年にかけて、労働担当のデスクでした。この間、働く現場の状況がますます悪化し、派遣法の規制緩和や解雇の金銭解決、残業代ゼロ労働など、以前と同じようなテーマが一層深刻な形で登場していることに、厳しい思いを抱いております。当面、ふだん新聞紙面に載りにくいようなテーマを追いかけていく予定です。今年3月までの2年間、札幌に勤務し、北海道内の労働組合や労働紛争を抱えている方々に大変お世話になりました。札幌出身でもあり、北海道には愛着が深いです。

●「メディアネットワーク」を模索中 前田健司

一人親方の映像制作者です。一方、私のようなフリーランスの仲間で作る労働組合「インディユニオン」で副委員長を務めています。レイバーネットとは若干内容は違いますが、私たちもユニオンの映像制作者やミュージシャンとともにニコ生で生放送をやっています。第2第4木曜日8時から、「みゅーすと」<http://com.nicovideo.jp/community/co1938106> 将来、こうした「市民メディア」を結集し、マスコミに匹敵するような大きな「メディアネットワーク」を創ることができないかを模索しています。よろしくお祈りします。

レイバーネット日本の会員になりませんか

現会員数 560名

ウェブアクセス 1日 5000

会員になれば、自分でニュースやイベント、お知らせを提供できます。レイバーネット日本は組合で個人で全国にアピールする絶好の場所です。

年会費 3,000円

(B会員 = 5,000円 通常 + TVサポート)

郵便振替 00150-2-607244 レイバーネット日本

銀行口座 東京都民銀行 小竹向原出張所

普通 55002960

入会申込用アドレス apply@labornet.jp.org

電話 03-3530-8588 ファクス 03-3530-8578